

二人で食べたいモンブラン

甲斐市立敷島中学校3年 高橋 絵莉香

もし、日本に税というシステムがなかったら？

書き出してみると、非常にアナーキーで緊張感さえ感じさせる疑問だなと思う。しかし誰もが一度は妄想したことがあるはずだ。私は常々、税制度のない日本を妄想する。直近だと、所望する商品が、税抜きの価格であったなら手を出せたのに・・・と、消費税を妬み、唇を噛んだあの時に妄想をした。実のところこの私は一度たりとも気持ちよく消費税を払った事はないのだ。冒頭に記述したこのスリリングな疑問を掘り下げ、税のない日本を現実的に想像してみたいと思う。

私の身の回りの変化としては、私がいままで煩しい消費税のせいで叶わなかったささやかな願いが実現していくだろう。今まで私のおこづかいでは一つしか買えなかったモンブランを2つ、買うことができるし、あの時、消費税のせいであきらめるほかなかったプレスレットだって買えてしまう、といったなんともまあ、妄想するだけで踊り出したくなるような嬉しい変化が起きるだろう。しかし、ここで衝撃の事実が浮き彫りになってきた、街から安全なくらしを守る警察がいなくなり世にも恐ろしい犯罪者が跋扈してしまうことになるという…！更には子供たちが安心して学べる環境を整えることが出来なくなるというではないか。それだけにとどまらず、「医療」「年金」「介護」「子育て」といった、私たちが安心して生活するための公共サービスが十分に受けられなくなってしまう。具体的にはお年寄りや体の不自由な人などのための施設や保育所の設備などの数が壊滅的になるといった問題が起きてしまう。私の大切なおばあちゃんがもし大病を患ってしまった暁には、一つ余分に買ったモンブランも二人で食べることは出来なくなるだろう。税が与える影響は、私の考える範疇をゆうに超えるもので、社会に必要不可欠な制度であることが身に染みて分かった。

今回、税について調べていく中で、私の考えがどれほど愚しく、貧しいものであったかを実感した。そして、税に対する考え方も大きく変わった。これからは気持ちよく消費税を払えそうだ。しかし、私がこの考えに至ったのは税について調べる機会が与えられたからであり、世の中には未だ税が何に使われているか知らず、以前の私のように憎しみをもって税を支払っている子供がいるだろう、私は、学校でもう少し税の授業を本格的に行うべきだなとも思った。